

古事記を読む会 2014年9月7日 NO.4

7月6日（日）午前10時から第4回古事記を読む会が開かれた。緑濃くなった呉羽山のあちこちで紫陽花がかわいく彩り添えている。今回も、新メンバーを入れて、和やかに呟きながら音読を進めた。読みのスピードはアップ。でも、意味は？本の上の註や下の訳文を後でしっかり読まねば・・・。

第4回は、「忍穂耳命と邇々芸命」ということで、葦原中国の平定 天若日子の派遣 建御雷神の派遣、と進み、大国主の国譲り 天孫降臨 猿女の君 邇々芸命の結婚 と読み進んだ。

良く聞く場面があり、意見見交換もあった。話題が多く、楽しく参加できた。参加者11名

【心に残ったこと等・・・会員のメモから】

- ・天之若日子の葬い 八日八晩→嘆き悲しみ？仏教では七の倍数だがこの数字の根拠は？韓国での葬いに 「泣き女」との関連は？
- ・古事記の内容を想像しながら、考古学を考えると大変おもしろく、つい推理小説の世界に入りそうです。
- ・石長比売の「石」に人間の寿命の長さを意味するように構成した話が、インドネシアの神話にあると知り、面白いと感じました。古事記がインドネシアの神話まで引用して書かれていることに驚きました。また、死の場面で鳥が関わってくるという指摘について、伊勢物語においても雁が魂を運ぶ使者として教えて歌を詠む場面があったので鳥に対する人の考え方を発見できました。
- ・サルタヒコの神はなぜ貝に手を挟まれて死んだのか？上は高天原を照らし、下は葦原の中津国を照らす神、天の宇受売命が伊勢から・・・
- ・建御雷神の派遣：大国主神はなぜ自分が言うことができずに、まず八重事代主神に言えとして、次に建御名方神に言えとしたのか？自分では決定できない立場なのか？バナナの話と古事記の繋がりが根っこの方でありそうなのは面白い。
- ・天照の高天原族が出雲を乗っ取る図式は太陽（天照）が照らすには雲（出雲）が邪魔だからだったからかな？
- ・ニギの命が降臨するときの周囲の様子が詳しく書かれている。天宇受売神や道案内など従えて、私の御霊として鏡を祭るよう等、本文を読むと多くの事が読める。筋を追うだけではなく、前後をよく見て、いろいろな繋がり等を考えて、読めるようにしたい。
- ・日本語を勉強するために皆様と一緒に古事記の本と読ませてもらって嬉しかった。日本の神話と歴史のことを教えていただいて面白いと思います。ありがとうございました。
- ・オモイカネ（思金）神・アジシキタネヒコ・コノハナサクヤヒメ・マサカツアカツ・・・アメノオシオミミなどの神の名に、金属利器の陰が感じ取れると思います。サク（咲く）とスキ・シキは同根（系）のことばでしょう。コトシロヌシ・タケミナカタのコト・カタも同音（根）と思われます。